

いせえび太平洋中・南部系群（伊豆諸島周辺海域）

評価対象種：イセエビ（伊豆諸島海域）



令和7年4月

資源の水準と動向「中位・横ばい」

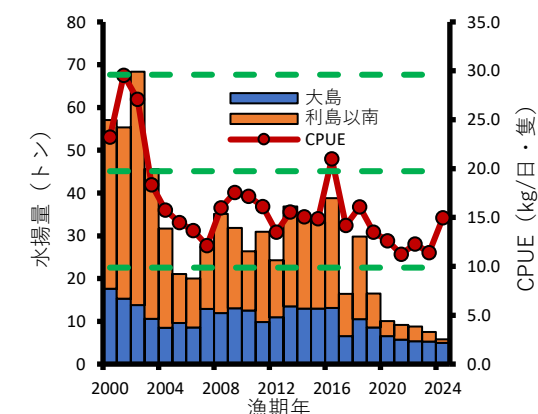


図1 水揚量とCPUEの推移

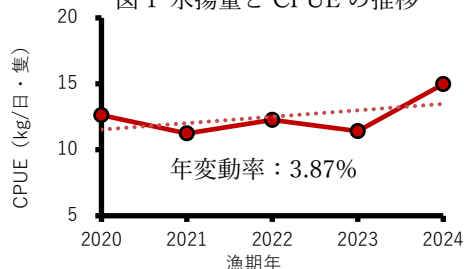


図2 いせえび刺し網CPUEの年変動率

2000年以降の伊豆諸島海域におけるイセエビの水揚量は、68トンで最大値となった2002年以降減少傾向で、最新の2024年では最大時の1/8程度まで減少している（図1）。特に2019年以降は大島での水揚げが伊豆諸島全体の5割以上を占めている（図1）。

一方で、CPUE（いせえび刺し網漁業1日1隻あたりの水揚量）も2001年以降に減少し、2003年以降は11～21 kg/日・隻の中で増減を繰り返している（図1）。

本資源評価票の資源量指標値はCPUEとした。2024年における資源の水準は、CPUEが最大値となった2001年の29.6 kg/日・隻の1/3以上2/3未満である15.0 kg/日・隻であるため「中位」とした（図1）。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が3.87%であり、年間±5%以上の増減でないため「横ばい」とした（図2）。

生態学的特性

- 分布・回遊：茨城県以南の太平洋岸、九州沿岸に分布し、東京都においては伊豆諸島に生息する^{1、2)}。
- 年齢・成長：成長は雌よりも雄の方が速いとされ、三重県においては雌の体重が1～3齢でそれぞれ70.1 g、158 g、237 gになるのに対し、雄では約78.7 g、207 g、344 gになる³⁾。
- 成熟・産卵：産卵期は5～8月であり、1月程度の抱卵期間を経た後に幼生として約1年間の浮遊生活を行い、着底後2年で成熟する^{4、5)}。
- 被捕食関係：貝類、甲殻類等を摂餌する⁶⁾。

東京都におけるイセエビ漁

- 漁業：伊豆諸島の各島において第一種共同漁業権の対象種であり、重要な磯根資源となっている。
- 漁法：刺し網により漁獲される。
- 管理：東京都漁業調整規則において採捕禁止期間（6～8月）や大きさの制限（全長※13 cm）が設定されている。また、第一種共同漁業権行使規則の中で、漁場管理委員会で口開け・口止め期間を決定し操業期間を制限する他、漁具・漁法の制限や体長制限、栽培区の設定等が行われている。

* 全長は目のつけ根から尾の末端まで

- 1) 峯水亮. 2000. イセエビ. 武田正倫・奥野淳兒 (監). 海の甲殻類. 文一総合出版, 東京, p 118.
- 2) 関口秀夫. 1988. イセエビ *Panulirus japonicus*(Von Siebold)の地理分布をめぐって. 水産海洋研究会報, 52 (2) : 160-168
- 3) 山川卓. 1977. 複数体長組成データの解析によるイセエビの生長と齢別組成および加入の推定. 水産海洋研究, 61 (1) : 23-32
- 4) 大島康雄. 1976. イセエビ資源の培養に関する考え方. 水産土木, 12 (2) : 1-3
- 5) 野中忠. 1988. 生態・成熟 (イセエビ) 平野礼次郎 (編). 水産学シリーズ 71 エビ・カニ類の種苗生産, 恒星社厚生閣, 東京, pp. 28-38
- 6) 小池隆・山崎博貴・内田誠. 2003. イセエビの摂餌活動の周年変化. 日本水産学会誌, 69 (4) : 568-574